

施策マネジメントシート

基本施策名	17 花と緑と水のある環境づくり	施策統括課	環境政策課	氏名	清水紀明
政策名	6 環境	主な関係課	下水道課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等

- ・市内全域
- ・公共用水域

施策の目的

市内外に国立の魅力印象を印象づける重要な地域資源として、より多くの緑を保全し、市内の貴重な水資源の水量の確保と水質の向上を目指します。

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	市内面積	km ²
イ	公共用水域	km
ウ		
エ		

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

	1	名称(展開方向ごとに記載)	単位
	ア	緑が十分にあるまちであると思う市民の割合	%
	イ		
	2	ア 雨水浸透ますの設置数(累計)	基
	イ	湧水の測定地点における環境基準の達成率	%
	3	ア	
	イ		
	4	ア	
	イ		

2 第1次基本計画期間(平成28~令和5年度)内における取組内容

No.	施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1	花と緑の確保	将来にわたって継承すべき貴重な財産として、花と緑を大切に守り育て活かします。	<p>屋上緑化、緑のカーテン(壁面緑化)、生垣の形成を促進し、公共施設や民間建築物の敷地内及び屋上、壁面等の緑化を推進します。</p> <p>青柳崖線や東京都の歴史環境保全地域である「谷保の城山」などの市内に残された貴重な緑の保全を推進します。</p> <p>花と緑のまちづくり協議会の活動を促進し、花と緑を充実させていきます。</p> <p>市民の身近な緑である公園を適正に維持、管理していきます。</p>
2	水環境の保全と活用	矢川や湧水等の水環境を保全し、市民生活に精神的な安らぎや潤いを与えます。	<p>地下浸透機能を持つ緑地等の保全や雨水浸透ますの設置を促進し、地下水のかん養に取り組みます。</p> <p>地下水及び湧水の定期的な調査・監視を行い、その結果を踏まえ良好な水質を維持するために必要な対策を講じます。</p> <p>市内に残された貴重な自然資源である矢川や湧水、府中用水などの水環境を市民の憩いの場や学びの場として活用します。</p>
3			
4			

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	H27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	目標達成度			
対象指標	ア	km	見込み値	8.15	8.15	8.15	8.15							達成・未達成	前年度比較	
			実績値	8.15	8.15	8.15	8.15									
	イ	km	見込み値													
			実績値	30	30	30	30									
ウ			見込み値													
			実績値													
エ			見込み値													
			実績値													
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値										未達成	低下	
				目標値	45.5	46.0	46.6	47.1	47.6	48.1	48.6	49.1	50.0			
		実績値	51.7	49.5	51.5	46.8										
		基本計画における指標の説明又は出典元		国立市市民意識調査(緑が十分にあるまちであると思う市民の割合)												
	イ			成り行き値												
				目標値												
	ア	基		成り行き値										達成	向上	
				目標値	14,300	15,200	16,100	17,100	18,100	19,175	20,250	21,325	22,400			
	実績値	13,989	15,032	16,118	17,117											
	基本計画における指標の説明又は出典元		市の助成及び窓口指導によって設置された雨水浸透ますの基数(各年度末)													
	イ	%		成り行き値										達成	維持	
				目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
	実績値	96.0	92.0	100.0	100.0											
	基本計画における指標の説明又は出典元		湧水の測定地点における環境基準の達成率													
	展開方向3	ア		成り行き値												
				目標値												
イ			成り行き値													
			目標値													
展開方向4	ア		成り行き値													
			目標値													
イ			成り行き値													
			目標値													
事務事業数		本数		15	13	10										
施策コスト	事業費内訳	財源	国庫支出金	千円												
		都道府県支出金	千円		6,300	4,100										
		地方債	千円													
		その他	千円													
		一般財源	千円		187,942	186,322	171,480									
		事業費計(A)	千円		194,242	190,422	171,480	0	0	0	0	0				
		延べ業務時間	時間		17,120	16,172	15,987									
人件費	人件費計(B)	千円		65,450	60,700	56,775										
トータルコスト(A)+(B)		千円		259,692	251,122	228,255	0	0	0	0	0	0				

4 施策の成果実績値に対する評価

(1) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)~E(かなり低下)

B:成果がどちらかと言えば向上した

(2) 他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い)~E(かなり低い)

C:他自治体と比べてほぼ同水準である

背景として考えられること

- ・市と市民の協働により、花と緑のまちづくりの推進組織として「花と緑のまちづくり協議会」を発足させ、特に大学通り緑地帯では花壇づくりを精力的に行っている。
- ・雨水浸透ますの設置促進により、地下水の涵養が図られている。雨水浸透ます設置助成金制度の利用は無かったが、開発行為等により窓口指導での設置が多数あることにより、年々設置数は着実に伸びている。
- ・湧水の環境基準については、ママ下湧水及び青柳段丘湧水での調査結果で、全部の地点でPHは基準値内であった。

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?

みどりは、身近な自然とのふれあいや安らぎ、冷涼な空気を生み出す憩いの場の提供等、市民生活にとって不可欠なものであり、また、環境保全、防災、レクリエーション、都市景観等の面でも重要な役割を担っています。しかしながら、近隣市と同様、都市化の進行により、農地を含む市内の緑地面積は減少傾向にあります。湧水については、冬期を中心として水量の低下がみられるため、今後も引き続き雨水浸透ますに代表される地下水の水量を確保する取組みが求められます。また、平成26年度には「雨水の利用の推進に関する法律」と「水循環基本法」の二つの法律が施行され、水資源の活用や保全などに関し、国等の責務が明らかになりました。平成25年度に設立した「花と緑のまちづくり協議会」との協働事業は、花壇づくりや接ぎ木育苗など数多くの事業を展開しており、市民団体等の協力が不可欠となっています。なお、平成30年度には、台風被害を受け、大学通りの桜が倒木し、市民の安心・安全を確保するため桜の維持管理にの方法について、緊急的に見直す必要性が生じた。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

府中用水を環境型用水路として、通年通水を行うことや、崖線等の樹木の保全などの要望がある。一方では、崖線等の樹木に対する近隣住民からの各種(落葉や日陰)苦情も多くなってきている。水田農家の減少により、用水路の維持管理が行き届かないことによる苦情が市に寄せられている。大学通りの桜等の倒木などにより、人への事故がないよう、安心安全を確保を徹底して欲しい。

6 H30年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の取組状況

H30年度の取組状況	R1年度の取組予定
<ul style="list-style-type: none"> ・「里人会議」を開催し、同じフィールドで各種事業を展開する団体等の相互間の交流を深めた。また、3月には里山フェスタの実施した。 ・「花と緑のまちづくり協議会」とともに、数多くの事業を展開し、参加者同士のコミュニティの形成並びに花と緑のまちづくりを推進した。 ・「大学通り全体計画検討会等」を9回開催し、全体計画と桜の維持管理に特化したフロー(案)を策定した。 ・「くにたち緑のサポーター」については、スタンダードコースでは連続講座を開催し、新規にアドバンスコースを設定し、より深い知識等を修得に努めた。 ・崖線の保全及び安全を確保するため、改修工事実施設計を行うと共に、周辺住民等への説明会を開催し、次年度工事に向けた合意形成に努めた。 ・崖線の維持管理方針(案)について検討した。 ・市内の湧水を復元し谷保の原風景の保全を図るため、市内地下水に係る地下水涵養調査を実施した。 ・地下水かん養の為、雨水浸透ますの設置助成事業を継続して実施した。(件数:設置助成金0基及び窓口指導999基で計999基設置) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「里人会議」を開催し、同じフィールドで各種事業を展開する団体等の相互理解を深める。また、3月初旬には里山フェスタの実施する。 ・「花と緑のまちづくり協議会」と共に、数多くの事業を展開し、参加者同士のコミュニティの形成並びに花と緑のまちづくりを進める。特に大学通り緑地帯全体計画検討会では、大学通り緑地帯のあり方に関し、桜の更新も含め、保全と利活用の両立について検討を行っていく。 ・「大学通り全体計画検討会」において、全体計画について集約を目指す。また、桜の維持管理に特化したフロー(案)について、市民からの意見を聞き、集約及び周知を図る。 ・「くにたち緑のサポーター」の連続講座を開催し、さらに多くの緑のサポーターを養成する。また、より高度なコースとしてアドバンスコースを引き続き実施する。 ・崖線の保全及び安全を確保するため、改修工事を実施していく。なお、実施にあたり周辺住民等への説明会を開催し、周知・理解に努める。 ・崖線の維持管理方針を定める。 ・市内の湧水を復元し谷保の原風景の保全を図るため、市内地下水に係る地下水涵養調査結果に基づいた施策について検討する。 ・地下水かん養の為、雨水浸透ますの設置助成事業及び窓口指導を継続して実施する。 ・公園長寿命化計画策定のため、全体把握を行うための予備調査を行う。

(2) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 必要に応じて展開方向ごとに記載

総合基本計画及びH30年度行政経営方針に照らして評価する

みどりが多いと感じる市民の割合は、前年度に比べ、4.7%減少したものの、世論調査では当該事業の評価が68.7%となり、市民満足度で一定の理解をいただいた。これは、花と緑のまちづくり協議会の活動などにより、大学通り緑地帯などで緑の保全や創出に向けた取り組みの成果などが考えられることや、台風被災への速やかな対応や、公園機能の一部である遊具の不具合への真摯な向き合中で迅速な対応を含めて評価されたものと考えている。
くにたち緑のサポーター養成講座の受講者のうち、修了テストを行った結果、延べ83名の登録サポーターを誕生させている。
雨水浸透ますについては、着実に設置個所が増加しており、地下水のかん養が図られている。

7 施策の課題・今後の方向性 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) R2年度の取組方針

・「里人会議」を開催し、同じフィールドで各種事業を展開する団体等の相互間の交流を深め、里山フェスタを実施する。
・「花と緑のまちづくり協議会」とともに、検討会を通して数多くの事業を展開し、参加者同士のコミュニティの形成並びに花と緑のまちづくりを進める。また、「くにたち緑のサポーター」の連続講座では、アドバンスコースを継続実施するなど、サポーターのさらなるスキルアップを図る。
・「大学通り全体計画検討会」において、策定予定の全体計画について周知を図る。また、桜の維持管理に特化したフローに基づき、維持管理に努めるとともに市民への周知を図る。
・城山公園の拡張を進める。
・地下水かん養の為、雨水浸透ますの設置助成事業及び窓口指導を継続して実施するとともに、地下水涵養調査結果に基づいた施策を進める。

(2) 中期的な取組方針

・公共施設等や、市街の生垣の形成を促進し、民間建築物の屋上、壁面等の緑化を推進し、立川、青柳崖線や城山地区などの市内の貴重な緑の保全を推進する。また、花と緑のまちづくり協議会の活動を促進し、花と緑を充実する。
・市民の身近な緑である公園を適正に維持、管理する。
・生物の多様性について検討を行っていく。
・地下浸透機能を持つ緑地等の保全や雨水浸透ますの設置を促進し、地下水のかん養に取り組み、地下水及び湧水の定期的な調査・監視を行い、良好な水質の維持に努める。
・貴重な自然資源である矢川や湧水、府中用水などの水環境を市民の憩いの場や学びの場として活用する。
・崖線の維持管理方針に基づき、適正な維持管理を進めるとともに、「農の営みが残る原風景」の保全に努める。